

研修名 幼児教育・保育

平成30年2月13日(火) 10:00~12:30

講演 「幼児期にふさわしい生活と遊びを通しての学び」

講師 関東学院大学 久保 健太 氏

1. 講演要旨

1) 子どもにとって『学び』とは・・・3つの学びと5つの段階がある。

主体的な学び：本人の「やりたいこと」から始まる学び

(保育者の「やらせたいこと」から始まるのではない)

対話的な学び：色々な発見・発想・考えが重なって問題が解決されていく学び

試行錯誤を通じて学ぶという事

(正しいやり方よりも、その子なりのやり方を見つけられるよう尊重する)

深い学び：学びの深さには3つのレベルがある。

学習Ⅰ：教えられた通りのやり方で解決しようとする。

学習Ⅱ：自分達で状況を把握しながら、問題を解決する。

Ⅱa-簡単なヒントをもとに、教えられたやり方で

Ⅱb-教えられたやり方を繰り返す内に、自分なりの方法を試す。

学習Ⅲ：自分たちの解決方法を問い直しながら、新たな方法を編み出す。

段階①：やりたい

段階②：やりたい、けど、できない(失敗から学ぶ事で、深い学びの発生)

段階③：やった、できた

段階④：いつでも、どこでも、できる

段階⑤：できるようになった子(事)が、周りの人間に波及する

2) 基本的信頼(エリクソン)とは

欲求表出に、個別に応答(配慮)してもらうことで育つ感覚(主に0~2歳)

{ この人は、自分の表出に応答してくれる(相手への信頼) }
{ 私は他者から応答してもらえる人間だ(自分への信頼) }

できなくても、側にいてくれる ⇔ できなければ、見放される(基本的不信)

↳ やりたいけど、やらない

これまでの指針は、「保育者と子どもの信頼関係」を大事にしてきたが、

加えて大事なものは「子ども同士の信頼関係」。

⇒ハプニングと一緒に対処する(できなくても、しようとする)中で

仲間たちでなんとかかする関係づくりをしていく。

「自分の事は自分でする」ではなく「自分たちの事は自分たちでする」

3) 保育者の専門性とは？

正しい事を教えて伝えるのではなく、深い学びをどう生み出すか

- ① 「やりたい」にどう火をつけるか
 - ② 「やりたいけどできない」をどう持続させるか、見守るか
- …保育者のやりたい事よりも、子どものやりたい事を尊重する
…「正しいやり方」よりも「その子なりのやり方」を見つけられるよう尊重する
…できるかどうか、よりもやろうとするかどうかを見ていく

4) 失敗とどう付き合うか

試行錯誤：Try and error（挑戦と失敗）を繰り返す

失敗をしてもまた挑戦するには？

保育者が、その「人となり」にあったメッセージを送る

（「笑い飛ばす」「優しく慰める」など言葉と表情を一致させ、メッセージを送る）

5) ヒヤリ・ハットをどう防ぐか

やらされている’子が1人もいない。

- ① コミュニティが同時進行している
- ② 同時進行しているコミュニティが逆の性格を持っている
（アクティブなもの⇄まったりしているもの）
↳「やりたい」に火をつけるポイントでもある。

正統的周辺参加（見るだけの参加・口だけの参加）

やりたい気持ち、その子なりの参加を許す

6) 生活と遊び

生活：モノが正しい使い方で使われている

遊び：本来の使い方とは別のその子なりの使い方で使われている

2. 感想

最後の、「生活」と「遊び」の話聞き、生活と遊びはつながっているのだと改めて感じた。子どもたちは日々を過ごす（遊んだり、生活をしたりする）中で色々な発見をし、『不思議』と感じたり、考えたり、試したりする事（深い学び）で更に新たに発見したり、気付いたりし、その身を通して繰り返し確かめていく中で力をつけていくのだと思った。そうして様々な力や想像力をつけていく為には、子どもたち自身が「やりたい」と思う事、やってみる事、楽しむ事が何よりも大切で、私たち保育者がすべき事は、‘子どもたちがやりたいと思える環境作り’、そして喜びや、悲しみなどの感情を分かち合う事（共感）なのだと思う。また、保育園という“仲間”がいる環境だからこそできる事も多くある。子どもたちの“やりたいに火をつける”事が保育者の専門性という言葉に改めて身が引き締まる思いだった。

（記録：あひるが丘保育園 竹安慈香）